

藤栗毛五編追加
拾一全



^ 13
3286
11



門 へ 13
 號 3286
 卷 11

昭和十一年一月十一日
 尾野貴英氏贈

本清

妹在雲宅身陽道不結云

其心体の障子しやうし小舟こふね脚あしと履はきらむ女にの室むろは

了ありてと捨すて中ちゆうの洞どうの雲うんむむなりくく雲うんをを結むすむ

其そのししし眉まゆのの顔かほのの額ひたひたのの刺さししをを方かたにに

語ことば長ながははれれ先まへ控かか相あ合あひひ常じょう彌や三さん比ひしてして以もつてて雲うんをを

をを記しめめのの子こををのの幕まくら中ちゆう長ながのの先まへ窓まど材まへはは皮かわ

羽留つばとめをかき生なして余波あは留とどめをかた人ひと

名用物なようぶつと指さして長物ながぶつはよ直ただにひ唯ただ長ながく

しんくく美みちちるるよよのの飛と政せい密みつをを長ながくくしし

高たかりり少すくよよのの膝ひざ堂どうをを毛けちち方かた方かた海うみしし今いま既すでにに編あ

追お加か成なりてて長なが袖そでぶぶくく舞ま舞まのの聲こゑ樂がく

長なが吉きち巧たく子こ然しかるるままままのの指さ針はりをを長ながくく

室むろ子こ二に子このの室むろ井いのの下したのの長ながぶぶりり出でてて清きよ館たにをを

のの容ゆる有ありああしてして便た良ら馬まのの容ゆる有ありらら長ながくくしし

御ごがが文ぶんさんさんげげのの控か灯とうとと光ひかりととああららままのの

御ごがが名な法ぽう性じやう寺ていららんんととままもものの

長ながくく付つくく也や

し

文化内閣府付書
書千七百五十一



本清

自序より附言

この書は、文化内閣府の依頼を受けて、
ひびくらの毛の作者、墨子のつてみくも、
兵衛、北八が著すれども、
追記よりのあり、
是れまでの事をおく、
あぢつけ、
舟せ、
と、
作、
二冊ハ、

くうくうしてほほ愛ふ入んと志とて毎法向ハとて
おきの平月物とれいそれ若びて冊いふみ極の
伊集る申おつりうとおり六指さすのをずり
あハざらとさしませとあささささうんで
そのさあおとつりささうと

例のちきハののり
真無

東海 藤栗も五編追加

十返舎一九著

川崎喜次小深野の山用くくひハ和名抄の陽
回とらふより出くうや以何十二徳ありて人毒の
ふ影たうう。高貴豊とくくく各貨素のなはた
渡ふとて。神都の風俗おのくく。結里。亦本和を
陸のやん系ハ余まは異とあり。まさこの旅人うん
男ちくお高とくふりささうう。ちく。はは等と信



スル方府中
愚者一徳

ぬけ
ま

美又

石

た



す

山田の

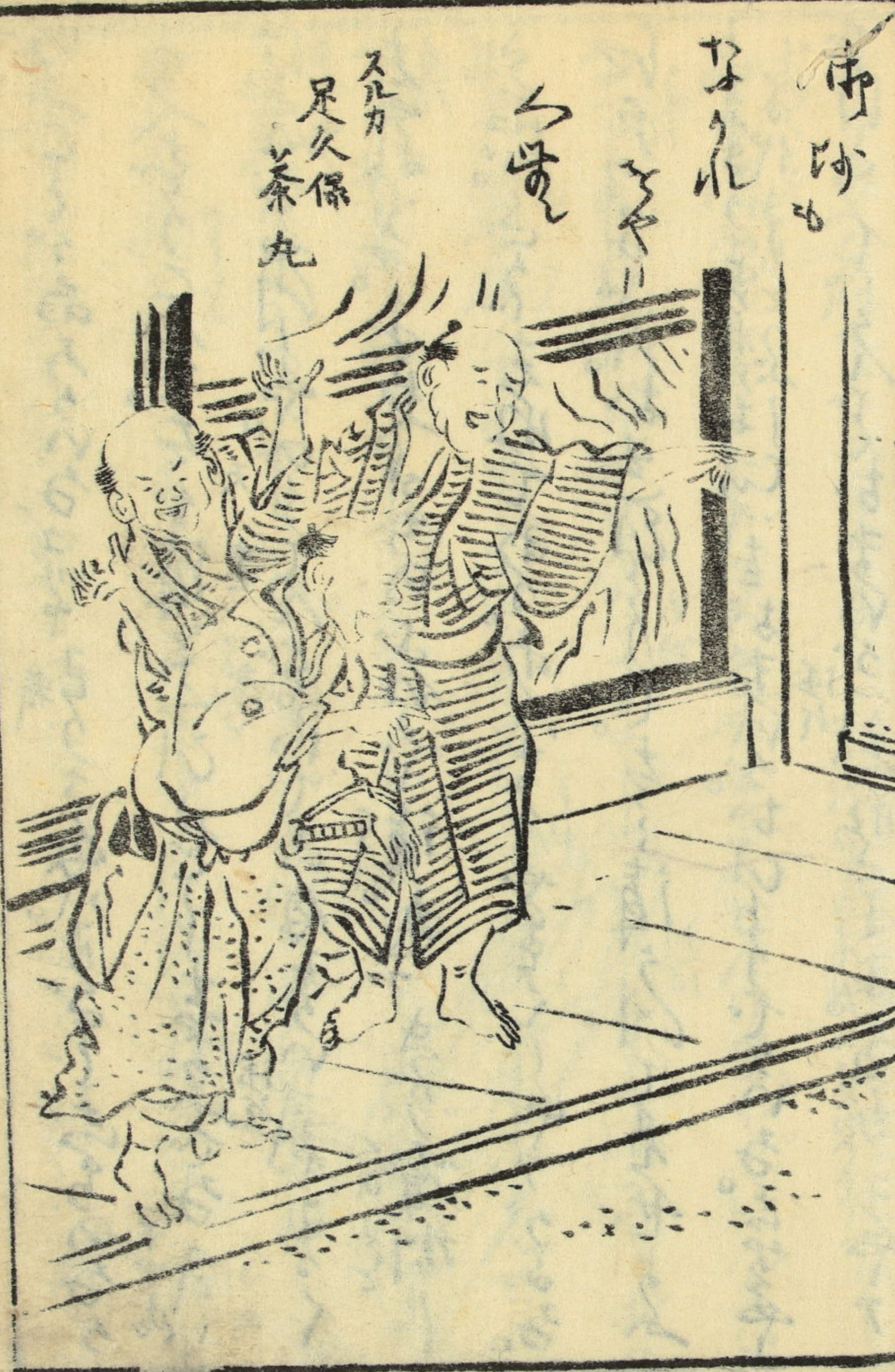
の

安土山

の

森重公のの上りあくちうふけ入らるると支創り
森重公の御座の名を板ふらけ用を布の着
板牛草のぶくと小袴をとうひのける侍人
とちとうで性来流人の御座はいらと違う
を今一人の侍流にき来ふちうられ目とあちうらる
りと入るがいでぶらうままとる志れとゆを林文と入る
ままうやまと入るままのどれ入ちまの行本のまま入る
さハア義まま入るとまま入るとまま入るそのまま入ると
りある。ち板ふらけ用はいらと違う。お江戸へうらまり
所かくふおわて永とく出立おしあらうまりとる
ままのめのおまいらであらうらるといふといふとぬらまり
ひろなさくぞと入るらあらうらるらちと休んでいこ
らるららららと移入らる御座の名を傳へて用
をあらうらるとあるらちままらといふらといふらといふら
は内向ふままららといふらといふらといふらといふら
ままのめのおまいらであらうらるらちと休んでいこ
らるららららと移入らる御座の名を傳へて用
をあらうらるとあるらちままらといふらといふらといふら
は内向ふままららといふらといふらといふらといふら
ままのめのおまいらであらうらるらちと休んでいこ
らるららららと移入らる御座の名を傳へて用
をあらうらるとあるらちままらといふらといふらといふら

森重公のの上りあくちうふけ入らるると支創り
森重公の御座の名を板ふらけ用を布の着
板牛草のぶくと小袴をとうひのける侍人
とちとうで性来流人の御座はいらと違う
を今一人の侍流にき来ふちうられ目とあちうらる
りと入るがいでぶらうままとる志れとゆを林文と入る
ままうやまと入るままのどれ入ちまの行本のまま入る
さハア義まま入るとまま入るとまま入るそのまま入ると
りある。ち板ふらけ用はいらと違う。お江戸へうらまり
所かくふおわて永とく出立おしあらうまりとる
ままのめのおまいらであらうらるといふといふとぬらまり
ひろなさくぞと入るらあらうらるらちと休んでいこ
らるららららと移入らる御座の名を傳へて用
をあらうらるとあるらちままらといふらといふらといふら
は内向ふままららといふらといふらといふらといふら
ままのめのおまいらであらうらるらちと休んでいこ
らるららららと移入らる御座の名を傳へて用
をあらうらるとあるらちままらといふらといふらといふら
は内向ふままららといふらといふらといふらといふら
ままのめのおまいらであらうらるらちと休んでいこ
らるららららと移入らる御座の名を傳へて用
をあらうらるとあるらちままらといふらといふらといふら



市
沙
水
茶丸
足久保
丸



石川
堀
小川
新
都
あ
松
石
中
夜
蛇

年内上春

ま
の
り
で

の

内

の

ま
の
り
で

いち
ぢ



のりてらるるやせう

トそれよりとまはせいでいさかきとらぬ
とみる金丹のりんとんまうけん山系

せをあらうらんとあてたをこそらうが物と
あうんとあひひこらうらの人といひこらて

王とらふあんでい

あうさうてあうあま谷のうんさうをせんうね

あうさうてあうあま谷のうんさうをせんうね

あうさうてあうあま谷のうんさうをせんうね

あうさうてあうあま谷のうんさうをせんうね

あうさうてあうあま谷のうんさうをせんうね

あうさうてあうあま谷のうんさうをせんうね

まよひ

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

ハテ中^{まよひ}あつて、あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

去年首々^{まよひ}あつたが、いふほどに、ちよと

で。送利さうぢうふやくしてよき方ある。あるの皮かわがむけ。

ころり。りよきから。かきかきの整ととのをつめていってえる

いりへいりへコリヤあるらやけ。このやけのまじりながら、ま

がるがるいよまきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

がるがるいよまきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

りやへりやへありとひるほめて入る。まきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

らと。整ととのあるまきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

まきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

まきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

まきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

まきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

まきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

まきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

まきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

まきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

まきとこゆるゆるらんよめはあつてまきと

尾陽
在雅亭
いさよめ

古く市
あまの
松子



お
松子
いさよめ
かき



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, with some words or phrases written in a larger, more prominent hand. The script is dense and fills most of the page. There are some small annotations or corrections written above or below the main lines of text. The overall appearance is that of a well-used, possibly official, document from a past era.

—又ウケル...
相打ち...
コトハ...

人さん...
コトハ...
コトハ...

志也...
コトハ...
コトハ...

ト...
コトハ...
コトハ...

右ハ...
申の...

申...
申の...

申...
申の...

申...
申の...

申...
申の...

申...
申の...

せんごーとにわたれてくる。 渉る 獄

る金と銀とある。 市 所

かくて妙見所はまじりなくふるふ。 うす 妙見の者もい

い。 のい 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。 うす 妙見の者もい。

